

笑いとは？

—ネタのデモンストレーションから、人がどのような時に笑うのか分析する—

1) 活動の概要

◇活動日程：2015 年 3 月 6 日

◇開催場所：新宿文化センター小ホール

◇参加者：総合政策学部准教授白井宏美先生、構成作家ゴウヒデキ氏
総合政策学部 3 年高松奈々（お笑い芸人たかまつなな）

2) 活動の目的

お笑い芸人である報告者が、実際にお笑いライブを実施し、観客がネタを見てどのように感じるのかを調査する。さらに、演者と作家と研究者によるシンポジウムを行い、お笑いライブで演じられたネタについて、どこが面白かったのか、笑いとは何なのか、などについて分析する。

以上のように、①プロの芸人である「たかまつなな」によるネタのデモンストレーション、②観客による質問紙調査、③シンポジウムの 3 つから、人がどのようなときに笑うのかを追究する。

3) 活動の成果

【ネタのデモンストレーション】

「たかまつなな単独ライブ」として、高松奈々が一人でネタを 14 本披露した。時間はおよそ 90 分間である。前説・手品・コント・フリップ・歌ネタなど多様なジャンルを披露した。入場料は無料で開催し、観客は一般募集した約 200 名。

従来の笑いの研究は、第三者が行ってきたが、本研究は演者である私自身が分析したという点が大きな成果としてあげられる。

プロの芸人による当事者研究は、本研究がはじめての試みであろう。



たかまつなな単独ライブの様子

【質問紙調査】

観客のうち、関東に住む大学生 30 名を協力者として、ネタ毎に質問紙に回答していただいた。『質問紙デザインの技法』『質問紙調査入門』などを参考にして、白井研究会のゼミ生と勉強会を実施し、白井先生のご指導のもと、12 項目の正誤法の質問紙を作成した。

【シンポジウム】

本ライブの演出をつとめた構成作家のゴウヒデキ氏、慶應義塾大学の白井宏美准教授、演者たかまつなな（高松奈々）の 3 人でネタのデモンストレーションを踏まえ、シンポジウムを開催。90 分のネタライブの後、30 分間行った。フレーム・レトリック・コンテキストの要素から本ライブのネタを分析した。さらに、14 本のネタがどの要素が強いのか、ホワイトボードに図を書きながら、分類した。何が面白かったのか、共感したからなのか、言語情報なのか観客に問いかけ、拍手をいただき、インタラクティブに行った。



シンポジウムの様子

4) 今後の課題

回収した質問紙のチェック、データ入力、集計、分析を行う。さらに、撮影したライブ映像と笑い声をもとに、笑いが生起した瞬間と原因を解明していきたい。今後は、演者自身が分析するという特性を活かし、笑いの規則性を正確に見いだしたい。

5) 謝辞

ご指導いただいた白井先生、演出をつとめシンポジウムにご登壇くださったゴウヒデキさん、質問紙作成に協力してくれた白井研の皆さま、来場していただいたお客さま、質問紙調査に協力してくださった大学生の皆さま、制作面で協力してくださった若手芸人の皆さま、サンミュージックプロダクションの皆さま、資金面でのご支援をいただいた湘南藤沢学会さまに厚く御礼申し上げます。